

平成28年度山口県パイロット事業(実証実験)の振り返り

目的及び概要

- トラック運転者の長時間労働等の改善に向けて、地域の実情を踏まえた実践的な議論を進めるため、発荷主・着荷主及び運送事業者(以下「対象集団」)が連携して、コンサルタント等の専門家のアドバイスのもと、①荷主及び運送事業者の現状の分析や課題の洗い出し、②課題に対する解決手段の検討、③解決手段の実践、④検証等を行う。
- 実施事例は、今後の中央協議会や地方協議会でのさらなる議論(ガイドラインの策定を含む)に活用する。

対象集団

製造工場

発荷主

製造業 A社

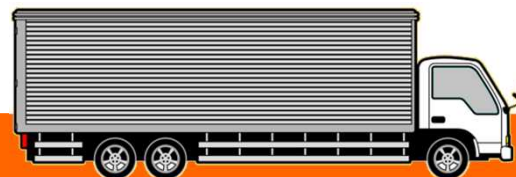
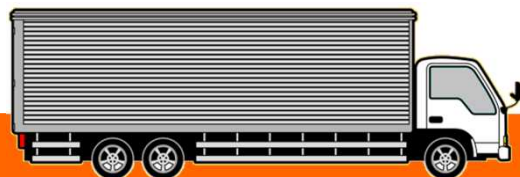
運送依頼

運送事業者(元請)

トラック運送事業 B社

運送事業者(下請)

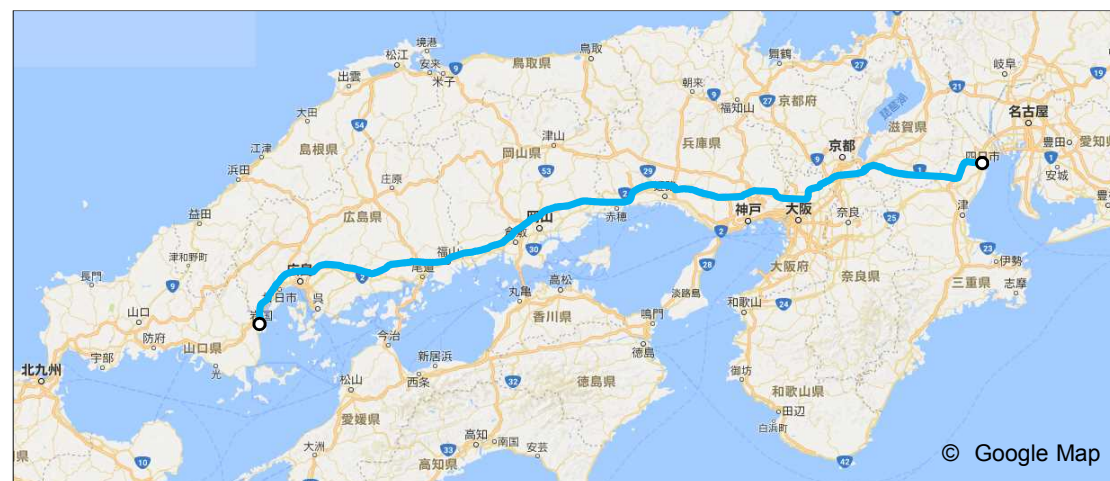
トラック運送事業 C社



山口県東部 ~ 三重県 1運行の走行距離(片道) 約600km

着荷主

倉庫業 D社



物流拠点

参考資料1

1. 実施集団(概要)

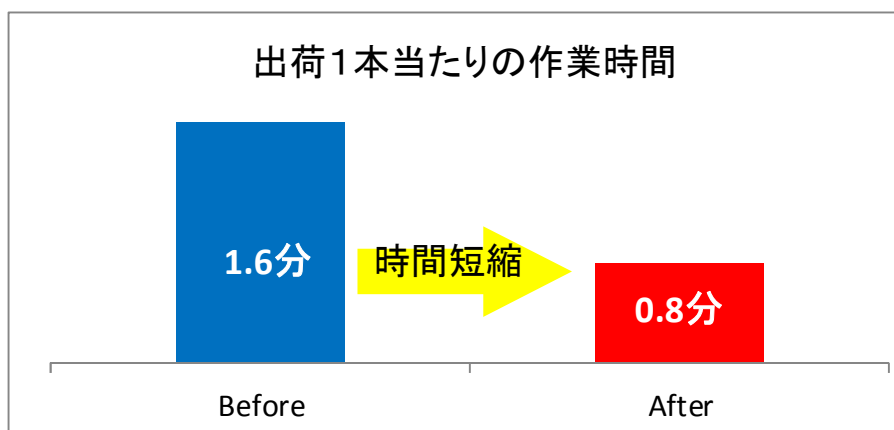
- 荷主企業：発荷主A社(製造業)、着荷主D社(倉庫業)
 - 発荷主A社は、大阪府に本社を置く総合繊維メーカー。山口県内に製造工場を有する。
 - 着荷主D社は、発荷主A社の全額出資による物流子会社。東海・信越・関西などに物流センターを配置・運営している。
- 運送事業者：元請運送事業者B社、下請運送事業者C社
 - 元請運送事業者B社は、福岡県に本社を置く大手運送事業者。発荷主A社の製品の全国輸送を担当しているほか、一部製品の保管業務を行っている。
 - 下請運送事業者C社は、広島県に本社を置く大手運送事業者。東北・関東・東海・関西などにグループ展開している。発荷主A社の山口県内工場からの化学繊維製品輸送の大半は、下請運送事業者C社が担っている。
- 荷種：化学繊維製品(荷姿はロール状)

2. 事業概要



倉庫に横積み保管されている製品を、ラムフォークリフトで1本ずつトラックの荷台に積み付ける。製品によっては、パレット積みで保管されているものもあり、パレットのままフォークリフトで荷台の高さまで上げた後、ドライバーが斜めに転がしながら荷台奥へと移動させていく作業が発生。

発荷主A社の製品倉庫における在庫の適正化や出荷作業時のオペレーションを改善した結果、積込み時間と手待ち時間が削減された。特に、出荷1本当たりの作業時間については半減。



3. 課題

- ① 発荷主A社の製品倉庫が手狭で、翌日の出荷分を荷揃えするときに、手前にある他の保管製品を一旦横持ちしないと、奥の出荷製品を取り出せない等、無駄な作業が生じている。
- ② 出荷前の一時保管スペース(上屋)が足りず、雨天時は作業が停滞してしまう。
- ③ 当初の出荷分積み込み後に荷台スペースの有効活用のため、満載になるまで行う積み足し作業と、伝票(送り状)修正に時間を要する。

4. 事業内容

- ① 工場内設備の定期修理による稼働停止に併せて在庫を適正に調整。
- ② 出荷製品の前に他の製品が積まれるような状況を解消。
- ③ スtockポイントへ優先的に転送できる銘柄の見直し
- ④ テント倉庫の増設などによる保管キャパの拡大
- ⑤ 工場内在庫と外部倉庫在庫の適正化
- ⑥ 運送事業者へ積込予定時間を事前連絡し、定刻入場を実施。

5. 結果

- ① 在庫が適正化されたことにより、出荷製品の前に他の製品が積まれているような状況が解消され、荷繰りすることなくラムフォークで倉庫から直接トラックに積みつけが可能となった。
- ② 荷繰りが解消された結果、積み込み開始から積み込み終了までの作業時間が概ね半減された。
- ③ 事業を通じて着先であるストックポイントとのコミュニケーションが向上した。

6. 荷主企業のメリット

- ① 保管スペースが効率的に使用できるようになり、荷繰りが解消されたことで構内作業時間が短縮された。
- ② 本事業を通じて 入場～接車、積み込み完了～退場までの時間等、細分化して見える化できるようになった。
- ③ 運送事業者との間で忌憚のない意見交換ができるようになった。

7. 結果に結びついたポイント

- ① 荷主企業と運送事業者で現場の問題点を確認した。
- ② 荷主企業、運送事業者が一同に介し、継続的な改善を検討した。
- ③ 荷主企業の協力により、出荷作業時間の短縮に取り組んだ。

平成28年度パイロット事業（実証実験）についてのフォローアップ調査

平成29年5月17日

中国運輸局山口運輸支局

◆パイロット事業実施後の現在の状況について

- パイロット事業を通じて、倉庫の増設や出荷作業の見直し等に取り組み、荷繰りや運用面での改善が進んだため、手持ち在庫量は減少、全体として適正化されている。
- 季節的な波動があるため、4月から5月上旬にかけて一時的に在庫量が膨らんだが、前年までに比べると状況としては改善している。

◆平成28年度のパイロット事業の取組のうち、現在も継続している取組はあるか。

- 荷繰りや運用面での改善はパイロット事業で得られた成果として継続中。
- 当社の製品はロール状の不織布で大きさはさまざま。ラムフォークで荷積みをする際も小さなものはどうしても時間がかかってしまうため、パイロット事業を通じて得られた解決の方向性として、「折畳み式ラック」の導入を検討中。現在4台ほど試作品を購入して改善を試行しているところ。

◆実証実験の実施にあたり、コスト増となったものについては、コスト増分を実験の成果（拘束時間削減による生産性向上等）が上回ることで十分補えているか。

- 倉庫の増設は当社の整備計画に当初からあったもので、たまたまパイロット事業の実施期間に合わせることができたもの。
- パイロット事業のために特別に予算立てをしていなかったため、パイロット事業によって増えたコストというのは人件費を含めて特にない。

◆平成28年度パイロット事業の反省点、教訓等

- 反省点や教訓といったものは特にない。パイロット事業によって改善を進める良いきっかけが得られたと考えている。
- これまで元請の運送事業者とは直接話をする機会もあったが、下請事業者との直接のつながりはなかった。今回のパイロット事業を通じて、下請事業者までを含めた関係者間での情報の受渡しなど、コミュニケーションを取れるようになったことがとても良かった。運送事業者も配車などの面で非常に協力的であった。
- 今後、当社ではフェリーを使ったモーダルシフトの取組みについても、検討を進めることとしている。（※物流総合効率化法案件ともなり得ることから、局交通政策部環境・物流課を紹介し、局担当者から連絡を取らせた。）